

# 園長だより

十九号三十年六月  
竹鼻保育園  
園長 川出昭順

## 花祭り いのちの尊さの自覚

無差別殺人事件を縁にして

花祭りはお釈迦様の誕生をお祝いする行事です。今から二千五百年ほど前、インドの国(今のネパール)にお母様はマアヤさま、お父様は浄飯王という王様のあいだにお生まれになりました。出産のため故郷に帰られる途中、ルンビニ園というお花畑で生まれましたと伝えられています。七歩かかれて、右手を天に、左手を地に指して、この世の中に最も尊い命をいただきました。このご誕生の出来事は仏教の教えをとて端的に語っています。人間一人一人のい



スノーバーへいってそり遊びをしました。真冬の氷点下の世界で寒かったです。もも1組のクラスだより

のちは、何もにも変えられない尊いのちであると。今日、このことが分からなくなり、生きていることをマイナスにしか考えることができな人が居ります。先日の新幹線の無差別殺人事件は特別のことかも知れませんが、自分の生きていることを喜べない、自暴自棄になつてしまつて、このようなどんでもない事件が起こつてしまつたと思われます。

## 自暴自棄の原因は

自分のいのちを否定的に捉えてしまつて、多くの人が苦しんでいます。最も尊い命をいただいで生きている、という自覚が仏教の基本ですが、そうは受け取れない。自分の思い通りにならない、夢をもつて頑張つても挫折しかない、人から馬鹿にされる。辛いことばかりである。世間が悪いと考えてしまいます。追い込まれていくと、外に全て問題があるようにしか見えなくなり、世間に仕返しをすることになってしまう。その反対は、自分が駄目人間と劣等感の塊になり内にもつてしまう。どこにも光が見えません。しかし、仏様は苦しむ全ての人に光となつて働きかけて下さいます。自分で自分を苦しめている、自分の思い通りにならないことに苦しむ必要はない、思い通りにしないと満足しない私を問題にせよ、あるがまま受け止めて生きよ。これらの言葉が響いたなら、苦しみから抜け出すことが出来るのです。なぜなら、自分の執着している価値観が変わろうとしているからです。それは自分の力ではできない。仏様のお働きに出遇っているから、このような大変化が私に生まれるのです。

## 孫のこと

私事なのですが、私の外孫が名古屋の幼稚園に行っています。年少組ですが、どうも上手に溶け込むことができないうで、先生を困らせているようです。あるとき、娘が悲壮な感じで電話してきました。孫が幼稚園の窓ガラスを割ったというのです。そこで、普通は何と言うことをしたのかと叱るのですが、私は「叱ってはいけません。反対に抱きしめよ。」といいました。3歳やら4歳では事のよし悪しは分かりません。今からしつけておくということも大事なのですが、それより、どうしてそんなことをしてしまったのか。親の愛情が伝わっていないのではないか、ということですが、娘は一生懸命子育てを頑張っているのですが、すれ違ったところがあるのでないか。こんな小さな子に言葉で言い聞かせることは、問題があります。小学生になったら勿論言葉できしつと叱ることは大事です。しかし、ここでは抱きしめることです。本人はいらいらしてガラスを割ったでしょう。そこへ追い打ちをかけることはしてはいけません。抱きしめるのです。お前は大事な子なのだよ。お母さんの宝なのだよ、と。これによって安心することができません。いらいらが少しずつ解消されていくのです。

もう一つ私自身の苦い経験があります。私の叔母の孫の話です。3歳ぐらいの時、孫の両親は離婚しました。叔母が母親代わりで面倒を見ていたのですが、その叔母が亡くなってしまったのです。小学校低学年の頃だと思えます。私の家にもよく来たのですが、かわいそうな子だ、何とか手を貸してその孫を育てなくてはならないと

思い、規律ある生活、勉強も一緒にやるなど、手助けのつもりでした。しかし、だんだん来なくなり、近くに住んでいる私の父親の弟のところへ行っておりまして。この叔母が上手に面倒を見てくれたのです。しかし、私の目にはただ好きなようにさせているだけで、毎日ごろごろしている、やりたい放題で、こんなことでいいのかと思ったことです。それから三十年、今は結婚して堅実な生活しているのですが、あのときのやりたい放題が良かったのでないかと。お母ちゃんとも別れなくてはならない、おばあちゃんも死んでしまう。本人にとって、絶体絶命の危機だった。それをどう受け止めていくことができるのかという大人の我々の問題だったのです。叔母はそこを踏まえ、支えてくれたのです。今日の彼があるのは、叔母のお陰と言っても過言ではありません。私であつたら、どこかでぐれていたかも知れません。そんな彼を私は、面倒を見てやったのに、できぞくないだと罵っているのだと思います。

保育園では登園してきた子、降園の子を抱きしめることを保育士に言っております。言葉で言うより、抱きしめるといふ行為によって、子どもたちは自分が大事にされている、先生に会うことができ嬉しい、そこから自分を肯定的に捉えることができる心が育っていくのです。保育園時代に子どもの成長に最も大切なことは、これです。勉強ができる、運動ができる、そちらに目がいきませんが、それよりも自分の生きていることを喜ぶことを育てることが、一人の人間としての成長に欠かせないことです。小学校中学校では勉強中心の生活になりますが、それを支えるのも、自分を大切にすることがあつて今なのです。子どもたちにとってそれほど大切な時代が